

# 地域住民の視点からの ICT インフラの有効な活用方法についての調査の実施 (案) ～地域資源の発掘・発信の可能性調査～

## 1 目的

地域住民の視点から、能登地域におけるケーブルインフラなどの ICT インフラの有効な活用方法について検討を行う。

特に、地域住民自身が日常の中で感じ取る集落生活を自らの手で取材したものと、同時にその日常生活を「よそ者・若者」の視点から取材を行い、その取材結果をアーカイブ化する。そのアーカイブ化したものや、今回の調査・取材そのものが、ICT インフラを活用して情報発信した場合、有効なコンテンツとなりうるかどうか検証を行う。

## 2 調査の方法

- ① 下記 7 地点から 3～4 地点を選定し、それぞれ 3～4 名の学生グループが民泊して、2～3 日間滞在しながら取材調査する。調査に当たって、ビデオ撮影等も行うものとする。

候補地：A.珠洲市日置地区東山中

B.能登町（内浦地区）

C.輪島市（輪島塗蒔絵職人集団・門前町）

D.穴水町（石彫刻家 池上氏アトリエ地区）

E.能登島

F.中能登町鹿西地区

G.志賀町富来西海漁港地区

- ② 地元のケーブルテレビ事業者等とも連携を図りながら、ビデオ撮影したもの、又は、その調査風景を取材したものを、ケーブルテレビの番組で配信等し、有効なコンテンツとしてなりうるかどうかの検証を行う。
- ③ さらに、滞在調査を通じて、地域住民の視点から、能登地域における ICT インフラの有効な活用方法についても、検討・取りまとめを行う。

## 3 調査時期

平成 20 年 8 月～12 月

## 4 調査結果の報告

調査結果を、第 4 回検討会(12 月頃開催予定)に報告する。

## 5 その他

実施に当たっては、ワーキンググループとも連携して進めることとする。